

## 立木観音寺

立木観音寺は、仏教の真言宗を開いた空海（774-835年）が開山した寺院です。言い伝えによると、空海の前に白鹿が現れ、それに乗って瀬田川を飛び越え、対岸から見た神々しく輝く木にたどり着いたといえます。彼が鹿に乗って近くの山頂まで行くと、そこで鹿は慈悲の菩薩である観音様へと変身しました。

この寺院は観音様を祀っており、本堂には空海が彫ったといわれる1.6メートルの木彫りの観音像があります。拝観者は、本堂の正面から観音様にお参りすることもできますが、この仏が安置されている場所により近い、本堂裏手にある小さな空間を利用することもできます。この仏像は公開されていませんが、寺の入り口にある別の像では、空海が聖なる鹿に乗っている姿が描かれています。

立木観音まで登る最短の道筋は、800段以上もある曲がりくねった石段です。山は杉で覆われており、登るのに従い、車の音や麓の川のせせらぎは鳥のさえずりに変わっていきます。